BUTTERFLY Note Taker

WHITE PAPER · 組織内で動作する会議アシスタント

会議データは組織内にとどまる。

オンプレミスに導入できる会議アシスタント：Teams、Zoom、Google Meetの会議にカレンダーから参加し、会話をトルコ語で文字起こしして、決定事項とアクションを参加者にメールで送ります。

カレンダーから参加

Teams、Zoom、Google Meet

トルコ語で文字起こし

会議のテキストを記録

メールで送信

要約、決定事項、アクション

組織内で動作

自社のサーバー、自社のAI基盤

エグゼクティブサマリー

会議での決定事項を、会議の後も見つけられるように。

組織の意思決定の多くは会議で行われます。しかし、決定の根拠、担当者、次のステップが文書として記録に残らないことも少なくありません。数週間後、チームは同じ情報をメールやチャットの履歴から探すことになります。

議事録を作成する外部サービスはこの問題を部分的に解決しますが、会議の音声と内容を組織外で処理する必要があります。情報セキュリティポリシーを持つ銀行、公共機関、規制対象の業界にとって、これは多くの場合認められません。

Butterfly Note Takerは、カレンダーから会議に参加し、会話をトルコ語で文字起こしして、会議終了時に要約、決定事項、アクション項目を参加者にメールで送る会議アシスタントです。オンプレミスに導入でき、ボット、録音、処理を組織自身のサーバーで実行できます。文字起こしと要約には、組織自身のAI基盤を利用できます。

本書の内容

- 会議の決定事項が失われる理由と、規制対象の組織における外部議事録サービスの限界
- Note Takerの4つのステップ：カレンダーの招待から会議の記録まで
- 同じ会議から2つの成果物：参加者向けの要約メール、組織向けのアーカイブ
- オンプレミス導入モデルと、適したチーム
- ある銀行でのオンプレミス導入
- 認証、KVKK、よくある質問

成果

会議データは組織内で処理されます。決定事項はメールで届きます。

課題

決定は会議で下され、記録の中で失われる。

会議で決定が下される。2週間後、チームはその決定がどのような条件で下されたのか、次のステップは何かを、メールやチャットの履歴から探している。

多くの組織では、議事録は一人の担当者が手作業で作成しています。記録係は会議に十分参加できず、メモは個人のファイルに残り、共有されても形式は会議ごとに異なります。アクションの担当者と期限を別途追跡しなければ、決定は実行に移される前に忘れられてしまいます。

決定の経緯が失われる

どの会議で、どのような条件で決定され、誰にどのような作業が発生したのかを後から見つけられず、同じ議題が再び持ち上がります。

各自が別々にメモを取る

参加者は共通の要約ではなく自分のメモをもとに動き、アクションの担当者と期限が明確になりません。

外部サービスは選択肢にならない

会話が組織内のデータポリシーの対象となる場合、外部の議事録サービスを利用できないことがあります。

監査で示せない

規制対象のプロセスでは、誰が何を決定したかを後から示せる必要があります。散在したメモではこれに対応できません。

規制対象の組織ではなぜ外部サービスが使えないのか

会議の音声とそこで下された決定は、組織の情報資産です。銀行や保険では、情報セキュリティポリシーにより、こうした内容を組織外に出せないことが多く、公共機関では会議の記録を組織自身の基盤で保管することが求められます。この場合、会議の音声を自社クラウドで処理するサービスは、どれほど便利でも導入できません。

解決策

Note Takerは、同じ会議から2つの成果物を生み出します。参加者は、それをもとに作業を進められる共通の要約を受け取り、組織は過去の会議の記録と要約に一つのアーカイブからアクセスできます。オンプレミス導入では、これらの処理は組織自身の基盤上で行われます。

仕組み

カレンダーの招待から会議の記録へ。

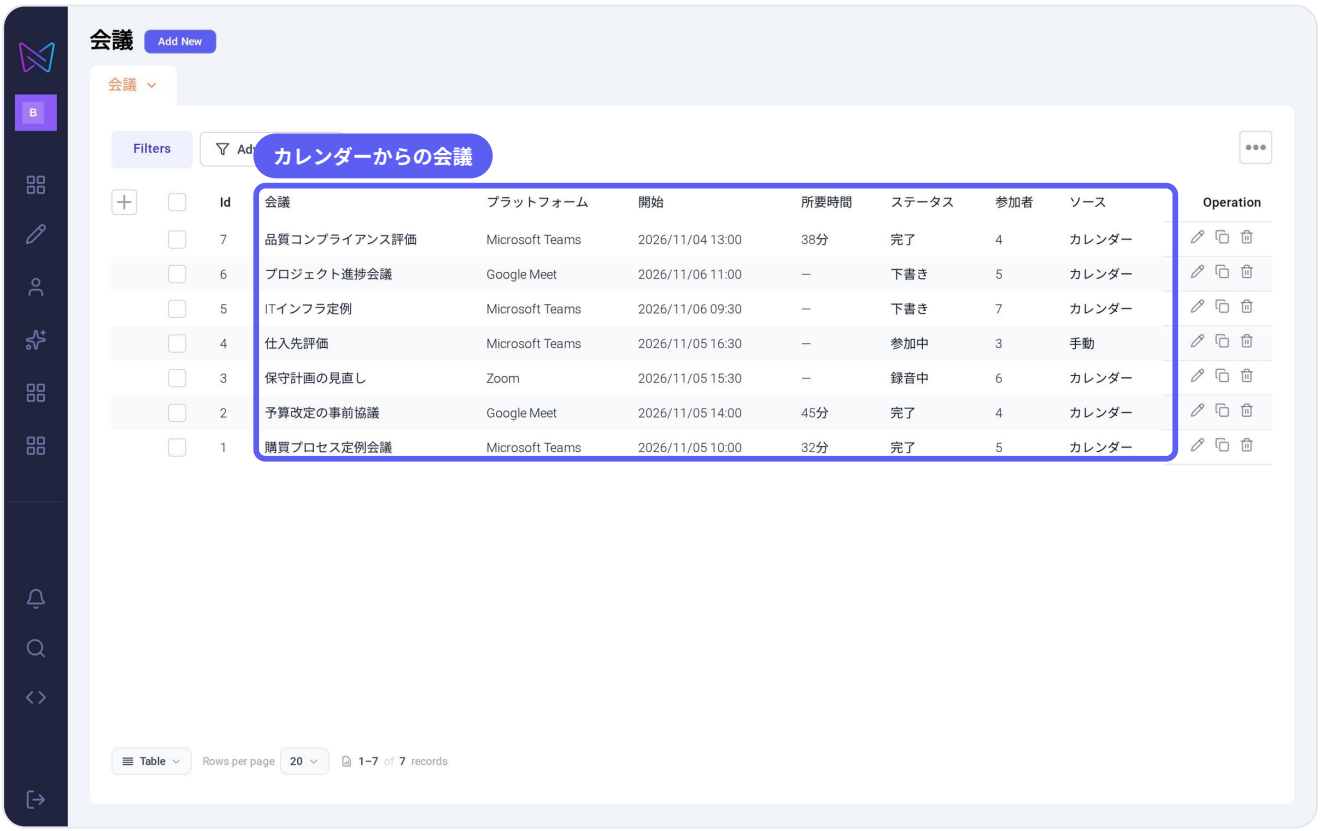
Note Takerは参加者の一人として会議に参加します。誰かがメモを取ったり、ツールを手動で起動したりする必要はありません。

1 **カレンダーから参加**
Note Takerはカレンダーと連携し、会議の時刻にボットとして通話に参加します。Microsoft Teams、Zoom、Google Meetに対応しています。

2 **録音し、トルコ語で文字起こし**
会議のテキストから、要約、決定事項の一覧、アクション項目を作成します。

3 **参加者に送信**
会議が終わると、要約、決定事項、アクションがメールで共有されます。

4 **過去の決定事項を探しやすく**
前四半期にサプライヤー変更についてどのような決定が下されたかを知りたいとき、該当する会議の記録と要約に立ち返ることができます。



会議。カレンダーから取り込んだ会議を、プラットフォーム、開始時刻、所要時間、ステータス、参加者数、取得元とともに一覧で表示。

画面から

会話はテキストに、テキストは決定事項に。

会議のテキストは、タイムスタンプ付きで1行ずつ記録されます。決定事項とアクションは、それが決まった会議に紐づく個別のレコードとして保持されます。



会議のテキスト。各行が、会議内の時刻と発言内容とともに記録されています。



決定事項。各決定事項が、それが下された会議とともに記録されています。

実際のButterfly画面です。会議、人物、数値はサンプルデータです。

2つの成果物

参加者には要約、組織にはアーカイブ。

同じ会議が2つの異なるニーズに応えます：参加者の「次に何をするのか」という問いと、組織の「この決定はいつ、どこで下されたのか」という問いです。



会議の要約メール。会議の終了時に参加者に届くメール：要約、決定事項、担当者と期限が明記されたアクション。

参加者向け：共通の要約

決定事項とアクション項目が、担当者と期限とともに参加者にメールで届き、全員が同じ要約をもとに作業を進めます。

組織向け：検索可能なアーカイブ

記録と要約はButterflyに蓄積されます。過去の会議には日付、会議、参加者で検索してアクセスでき、ある決定がどの会議で下されたかも見つけられます。

会議後のメールの内容

- 会議の名称、プラットフォーム、所要時間、参加者数
- 簡潔な要約と、決定事項の一覧
- アクション項目：それぞれに担当者と期限
- 全文テキストと録音は、Butterfly上の会議レコードに

オンプレミス導入とデータ主権

会議データをどこで処理するかは組織が決定します。

Note Takerはオンプレミスに導入できます。ボット、録音、処理の各サーバーは組織自身のネットワーク内で動作し、会議データが外部の議事録サービスに送られることはありません。

1 · 参加
ボット
組織のネットワークから会議に参加します。

2 · 録音
録音サーバー
会議の録音は組織のサーバーに保管されます。

3 · 処理
組織のAI基盤
文字起こしと要約には、組織自身のモデルエンドポイントを利用できます。

4 · 記録と配信
Butterfly
会議、決定事項、アクションがButterflyのレコードになり、要約はメールで送られます。

オンプレミス導入
ボット、録音、処理の各サーバーは貴社のネットワーク内で動作します。IT部門は自社のサーバー標準に沿って導入を管理します。

自社のAI基盤
文字起こしと要約には組織自身のモデルエンドポイントを利用でき、組織の既存のAI投資を再利用できます。

Butterfly内のレコード
会議、決定事項、アクションは、権限と監査証跡のもとにあるレコードです。

別途クラウド契約は不要
処理を組織の既存の基盤で行う場合、会議データのために別のクラウドサービスを契約する必要はありません。

導入前に一緒に明確にする事項

- 使用している会議プラットフォームと、ボットが会議に参加するネットワーク
- 組織内に既存の音声認識または言語モデルの基盤があるかどうか
- 会議後のメールを誰に、どのような内容で送るか
- 録音と要約に誰がアクセスするか、権限モデル

原則

会議データは外部の議事録サービスに送られません。処理は組織自身の基盤上で行われます。

対象となるチーム

会議を組織内にとどめる必要があるチーム。

Note Takerは、会議の内容を組織外に出せず、決定事項を後から示す必要があるチームのために設計されています。

銀行・保険

情報セキュリティ、ITインフラ、オペレーション、プロジェクト管理

理由

情報セキュリティポリシーにより、会議の音声と決定事項を組織外に出せないことが多く、外部の議事録サービスを利用できません。

できること

会議の内容を組織自身の基盤で処理し、運用上の決定事項を後から見つけられるようにします。

公共機関・公的関連企業

情報システム、調整、プロジェクトの各チーム

理由

会議の記録を組織自身の基盤で保管することが求められます。数週間後に同じ議題が再び持ち上がったとき、以前の決定にすばやく立ち返る必要があります。

できること

組織内のプロジェクト会議や調整会議で下された決定を、後の協議で呼び出せるようにします。

製薬

品質、薬事、オペレーションの各チーム

理由

品質や薬事の会議で下された決定とアクションは追跡可能でなければならず、監査では誰が何を決定したかを示せる必要があります。

できること

品質会議やプロジェクト会議の決定事項とアクションに、共通の要約を通じて立ち返れるようにします。

適合性を確認する4つの質問

項目	質問
データプライバシー	会議の記録を組織外で処理することは認められていますか？
会議の負担	会議はTeams、Zoom、Google Meetのいずれかで行われていますか？
決定事項の追跡	過去の会議での決定事項を、どのくらいの頻度で確認する必要がありますか？
インフラ	社内に音声認識や言語モデルの基盤はありますか？

現場から

ある銀行で、会議の録音とテキストを銀行のネットワーク内で生成しています。

この銀行では、会議データを銀行のネットワーク内にとどめる必要がありました。そのため、Note Takerは完全にオンプレミスで、銀行自身のサーバーに導入されました。

ボットは銀行のネットワークからTeams会議に参加し、録音を銀行のサーバーに保管し、銀行自身のAI基盤上の音声認識モデルで会話を文字起こしします。

0 | **外部の議事録サービスに送られる音声データ**

導入プロファイル

項目	銀行での導入
会議プラットフォーム	Microsoft Teams。ボットは銀行のネットワークから会議に参加
サーバー	1台のサーバーで同時に4会議（推奨構成：8コア、16 GB）
GPU	ボットサーバーにGPUはなし。モデルは銀行の既存のAI基盤上で動作
導入形態	ローカル導入。コンテナ不要で、銀行のLinuxサーバー上に
文字起こし	銀行自身のAI基盤上の音声認識モデル

効果

- 会議の音声とテキストは組織のネットワークから出ません。
- 組織の既存のAI投資を再利用でき、別途クラウドのサブスクリプションは不要です。
- IT部門は、自社のサーバー標準に沿って導入を管理します。

この事例で組織内で動作しているステップ

会議への参加、録音、会話の文字起こし。3つすべてが銀行のネットワーク内、銀行自身の基盤上で動作しています。

信頼

企業の会議データには、企業水準の信頼が必要です。

Note TakerはButterflyプラットフォーム上で動作します。会議、決定事項、アクションは、プラットフォームの権限モデルと監査証跡のもとで保持されます。

個人データとKVKK

会議の録音とテキストには、参加者の個人データが含まれる場合があります。オンプレミス導入では、これらのデータは組織自身の基盤で処理・保管されます。誰がアクセスするか、どのくらいの期間保持するか、参加者にどのように通知するかは、組織自身のKVKKポリシーと通知プロセスによって管理されます。Butterflyプラットフォームは、このポリシーを適用できるよう、ID管理、権限モデル、監査証跡を提供します。

ロールベースのアクセス

録音、要約、決定事項に誰がアクセスできるかは、プラットフォームの権限モデルで定義されます。

監査証跡

会議、決定事項、アクションは、Butterfly内で監査証跡のもとにあるレコードです。

証明書

証明書	範囲
ISO/IEC 27001	情報セキュリティマネジメントシステム
ISO 9001	品質マネジメントシステム
国産品証明書（Yerli Malı Belgesi）	ビジネスプロセス管理ソフトウェア（Butterfly）、国産比率100%、Aクラス、ハイテクノロジー
技術製品証明書	Butterfly DXP、トルコ共和国産業技術省

すべての証明書と検証リンク：butterfly.dev/ja/kurumsal/sertifikalar

よくある質問

Note Takerについて簡潔な回答。

どの会議プラットフォームに対応していますか？

Microsoft Teams、Zoom、Google Meet。

会議が終わると、参加者には何が届きますか？

会議の要約、決定事項、アクション項目がメールで送られます。

過去の会議を振り返ることはできますか？

記録と要約はButterflyに蓄積されます。過去の会議には、このアーカイブから日付、会議、参加者で検索してアクセスできます。

オンプレミスに導入できますか？

はい。ボット、録音、処理を貴社のサーバーで実行できます。音声処理と要約には、組織自身のAI基盤を使用できます。

ボットサーバーにGPUは必要ですか？

銀行での導入では、ボットサーバーにGPUはなく、モデルは銀行の既存のAI基盤上で動作しています。貴社のモデル基盤については、最初の打ち合わせで一緒に評価します。

デモで一緒に確認できること

- 貴社の会議プラットフォーム上の会議に、ボットがカレンダーから参加する様子
- 会議後に参加者に届く要約、決定事項、アクションのメール
- アーカイブから決定事項や過去の会議に立ち返る方法
- 貴社の基盤に合ったオンプレミス導入モデル

会議データがどこで処理されるかを一緒に確認しましょう。

お使いの会議プラットフォームとインフラ要件をもとに、ボットの参加方法、会議後のメール、オンプレミス導入のモデルについてご相談しましょう。

オンプレミスのデモを計画する · butterfly.dev